

ぶらり山を街 大人の散歩



取材・文 小堀隆司 イラスト 石井弁



京都府木津川市 鹿背山城

僧侶が築いた巨大な山城

ざあっと過ぎた通り雨で、足もとは濡れていた。並んで歩くこともできないような細い道がまっすぐ上に向かって延びている。西念寺のわきを抜ける山道が鹿背山城の大手道。「この平らかな場所が最初の曲輪跡です」と、先を歩く岩井照芳さん（木津の文化財と緑を守る会会長）が振り返って、話す。

鎌倉時代の遺物が出ていて、おそらく当時はここにも寺があったんじゃないか。城といえど、武士が築くものではない。鹿背山は興福寺のお坊さんが作った世にもめずらしい城なんです。美顔の阿修羅像で有名な興福寺は大和を代表する古刹のひとつ。平安時代より強大な勢力を擁し、武士の時代になっても守護の代わりに大和国を治め

るほどだった。なぜ木津川のほとりの小高い山にこれほどの山城が築かれたのか。曲輪の先に現れた、深く鋭く切れ落ちた巨大な堅堀を目にしたとき、ふとそんな疑問が頭をよぎった。

「本丸跡に登ってもらえばその理由がよくわかりますけど、木津川を眺める最高の立地なんです。ちょうど川が大きくカーブしているところで、流れの緩やかな湾処に日本有数の河川港があった。ようするに大和へ物資を運ぶ基地として、どうしても興福寺はここを守りたかったんですね」

古来より泉津（津は港の意味）の地名で知られ、港から古都奈良までは距離にしてわずか六キロ。下ッ道を歩いていけばそのまま朱雀大路へつながるといっから便利な場所だ。交通の要衝であることから戦略的拠点としても重要視され、戦国時代になるとこの城は松永弾正久秀の手に落ちた。現在の遺構はそのころ整備されたものであるらしい。「戦国の城跡だから石垣なんかはないけど、土塁も堀

615

切も立派でしょ。こんなに立派な山城なのに、以前は三メートル先が見えないジャングルでした。この城をとにかく世に広めたくて、十五年ほど前から私たちが有志で整備を始めたんです」

下草は刈り込まれ、土塁や切岸には小さなプレートが立てられているから見学しやすい。山頂を平らにならした主郭部分に立つと、本丸跡からは木津川を中心とした市内が一望できた。

「ここは京都ですけど、地理的には奈良の方がずっと近い。生駒山もほら、あそこにはきれいに見えるでしょ」

岩井さんたちの地道な努力が認められ、数年後には鹿背山城は国の史跡に指定される予定だとか。お坊さんが築き、戦国の梟雄、木津市民と受け継がれてきた山城は、雨上がりの日射しを受けてつややかに輝いていた。



木津の文化財と緑を守る会 <http://kizui1978.info/kaseyama.html>



田宮模型全仕事 [増補版] 1

ミリタリーモデルズ 3月12日発売

TAMIYA (スケールモデル) 70年の軌跡のすべて



©タミヤ

1946-2015 MILITARY MODELS・約700点収録

株式会社タミヤ編

完成品とパッケージを開発秘話とともに。21世紀以降の注目アイテムと新資料も網羅した待望の増補版!

文藝春秋 〒102-8008 東京都千代田区紀尾井町3-23 Tel.03-3265-1211(代) <http://www.bunshun.co.jp>

●定価(本体3250円+税)